

よさのうみ福祉会 広報誌

きょうと福祉人材
育成認証制度



2020年
11月1日
No.118

福祉よさのうみ

〈発行〉社会福祉法人 よさのうみ福祉会 〒629-2314 京都府与謝郡与謝野町字岩屋600-6 TEL 050(3532)0601 FAX 0772(43)0606

障害のある人のゆたかな地域生活の実現を! URL <http://www.yosanoumi-fukushikai.or.jp>



風が気持ちいい



可愛くかけたよ♥

「コロナの終息!!オリ・パラ開催!豊作?どれもみんなの願いとアイデアの詰まった力作でした。」
夢織りの郷に來られた時には敷地内に立てられたかかしを見て楽しんでください。

審査委員の品川事務局次長より

「つむぎ」全体が一つになりどれも素敵な作品に仕上がりました。審査委員として理事長をはじめ法人理事、管理者など11名が投票し、投票数の多かった作品には「かかしメダル」が掛けられました!

9月5日、夢織りの郷つむぎでは「土曜日の取り組み」として「かかし」作りをしました。主任にかかしを作ることを伝えると「それなら『かかしコンテスト』したらおもしろいかもね!」その言葉で利用者、職員一気に盛り上がり「当日だけでは間に合わない!」と各班でその翌日からペットボトルで人の形を作り、利用者と相談しながらテーマを決め、衣装や髪形、顔など作り上げていきました。初めはこっそり内緒で作っていた作品が、他の班などに道具や衣装など借りたり手伝ったり協力する中で

夢織りの郷つむぎ

支援員 長島 晴美

熱戦!
かかしコンテスト!!

法人設立40周年にあたり、この10年間の歩みをふりかえる

本年12月、法人は設立から満40年

社会福祉法人よさのうみ福祉会は、本年12月に設立40周年の節目を迎えます。1980年12月、府北部地域の障害者・家族・関係者の願いを社会福祉の法制度を活用して実現するため、当時の多くの関係者で法人を設立しました。

法人設立以降、創立記念事業を行ったのは2010年の設立30周年が最初でした。10年目の1990年も20年目の2000年も、当初に掲げた「法人設立の理念と課題」実現に向けた取り組みに忙殺され、創立記念事業を行う余裕すらなかったのが当時の実情でした。

設立40年の節目に、この10年間の歩みを法人広報誌上に3回連載でふりかえります。今号(11月1日)は10年前の30周年記念事業の概要を、次号(新年号)及び次々号(3月1日号)でこの10年間のふりかえりと今後の課題、展望を語りたいと思います。

設立30周年記念事業のふりかえり

法人設立30周年記念事業の取り組みは、その後10年間の法人事業発展に大きな力となつていくことを確認できます。

①法人設立30周年記念式典を実施

2010年12月11日実施の記念式典には職員、利用者、招待者約450人が参加。式典や仲間・職員のステージ発表を通し、京都府北部地域の障害者運動と法人30年の歩み、今日的な役割を関係者が共有する場となりました。法人の事業内容紹介パンフレット850部を作成し、式典参加者を含め広く配布しました。



広瀬前理事長のあいさつ

②30周年記念コンサートを実施

2011年3月21日、京都府丹後文化会館にて30周年記念コンサートを開催。当法人利用者、職員等に加え、圏域2市2町内の他施設関係者、一般参加者を合わせ約600人が参加。コンサートで

は、約100人の利用者・職員による合唱団が30周年記念ソング「君とであえて」など3曲を元気いっぱいに歌いました。手話ロックバンド「シヤンテ」の楽しく力強い歌声に、利用者が次々と舞台上にがり踊りだすなど、会場は大きく盛り上がりました。



力強い歌声が響きました

③職員連続学習会を3回開催

法人全職員を参加対象とした連続学習会1回目は「与謝の海養護学校づくり運動、府北部共同作業所づくり運動に学ぶ」、2回目は「法人設立、認可施設化運動、労働・生活施設づくり運動に学ぶ」、3回目は「地域生活支援事業の取り組み、法人事業の到達に学ぶ」のテーマで開催、毎回100人近い職員

が参加し歴史を学びました。

④「法人30年のあゆみ」を編集

2010年7月、法人職員、役員、評議員、出版社、学識経験者を交えた14名の「法人30年のあゆみ」編集委員会を立ち上げ、法人30年のあゆみ編さん作業に取りかかりました。

「あゆみ編集委員会」が、職員連続学習会の講演記録や取材報告等を整理。3年半の期間にのべ19回の会合を重ね、2014年3月、「法人30年のあゆみ」(総ページ数344)を完成させ、法人内事業所、関係者に配布しました。

⑤30周年記念書籍を出版

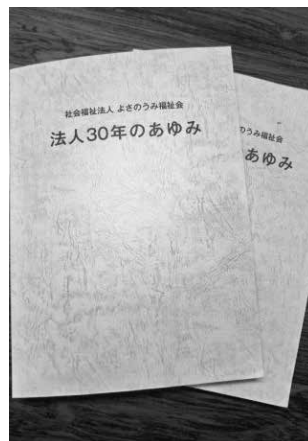
30周年記念事業としての書籍発行を計画。足掛け2年にわたる準備を経て2012年7月、(株)クリエイツかもがわから書籍『福祉がたなく地域再生の挑戦——自治体と歩む障害者福祉の可能性』を出版しました。この書籍は3部構成で、「リフレかやの里」の再生、制度の垣根を越えた4法人による地域共生型福祉施設開設など、全国から注目される先駆的事业がどのような形で進んだのか、30年の法人のあゆみを内容豊かにわかりやすく解説。全国の福祉事業所に呼びかけ、北海道釧路市から沖縄県与那原町に至る全国津々浦々150ヶ



30周年記念書籍

以上、30周年記念事業のあらましを①から⑤に整理しました。今振り返っても、これだけ多様な事業を実施できたのは、戦後の京都府北部地域の障害児教育運動、障害者福祉事業の大きな流れの中で法人30年の歩みを位置付け、今後の未来を展望しようとした当時の関係者の決意と情熱を確認できます。30周年記念事業の取り組みが、その後の法人事業発展にどのような繋がっているのか、次号にて報告します。

30周年記念事業がその後の法人事業発展の力に



所の事業所から注文を受け初版本2100冊を完売。今は電子書籍での販売を継続しています。

法人設立40周年記念企画 ～実践の到達から職員の仕事へ～

―実践報告撮影会―

法人事務局次長 品川 稔

一昨年より、法人設立40周年記念事業として、全障研発行の『みんなのねがい』に当法人が運営する5つの事業所での障害をもった人の「働く」をテーマに、まとめを含めた6つのレポートを連載しました。また、今年に入り同じく障害を持つ人の「暮らし」をテーマに5本のレポート作成に取り組みました。

この実践のまとめ（レポート）を共有し職員集団全体としての学びにつなげるため、他の40周年記念企画と並行して「実践報告会」を開催することとなりました。

当初は行政や支援学校、他法人や家族会関係者などに広く参加を呼びかけ、大々的に開催する計画でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い大規模なイベントの開催は難しいと判断せざるをえませんでした。

それでも、レポートとしてまとめられた当法人の「実践」を少なくとも職員集団として共有し、職員の「学び」を深めたいという方針のもと、参加者を各事業所の教育、研修を担う「主任」と各リーダーや関係者に絞り、少人数で実践報告会を開催することとしました。また、その様子を記録映像として残し、その映像を各事業所で職



田中 智子先生
報告会当日は、レポート作成の助言者でもあ

員が視聴し、実際に参加した主任を中心として、事業所ごとに研修をおこなうこともしました。

る佛敎大学社会福祉学部鈴木勉先生、田中智子先生を講師にお招きし、午前「働く」、午後「暮らし」の二部制で「実践報告」を実施しました。動画撮影ということもあり、限られた時間でこれまでのレポートの要旨を振り返る必要があり、「働く」・「暮らし」それぞれに報告の柱となるメインレポートを選び、メインレポートから他のレポートの発言を受けて、助言者にまとめていただきました。また、各部の後半では「働く」・「暮らし」レポートの総括とそれにちなんだ「特別講義」をいただきました。

「働く」では、障害のある人の「労働」を通して、発達保障や障害者権利条約、そして共同作業所運動の意義や私たち支援者としての「仕事」の価値について、グローバルな視点でご講義いただきました。

一方、「暮らし」については現代の非常に多様な「暮らし」をどのように支援するべきか、「正解」は

ないながらも、支援者が考え、悩み続けることの大切さや、障害を持つ本人が「主体的な生活者」として、自己決定もしくは共同決定できるような支援、そして何より障害のある人たちの「生活の実現」を社会に発信することで、障害者の暮らしの可能性を広げ、社会を変えていくことが必要であること訴えられました。

今後は職員研修委員会を中心に、全職員研修という位置づけで「実践報告会」の映像を事業所ごとに視聴して、学習を深める予定となっています。



鈴木 勉先生
花鈴で購入していただいた着物姿で登壇されました



いきいきやホームでの暮らしを報告

仲間が主人公のクッキー班

峰山共同作業所

支援員 藤岡 克彦



整理整頓された環境で作業します

職員中心から仲間中心へ

峰山共同作業所クッキー班は仲間8名(男5・女3・職員3名です。20代から70代までの幅広い年齢層で、作業計画から商品作成、納品までを仲間中心で頑張っています。外注仕事に出る仲間があり、毎日の作業人数は平均3、4名です。4年前に私がクッキー班担当になった頃は職員が中心で作業を回していました。

力のある仲間が多いのにその力が発揮できていないように感じました。食品部門だから仕方ないのかとも思いましたが、これが仲間支援なのか?と疑問を感じ、管

理者と主任に相談しました。そして職員会議などで論議をくり返し、主人公は誰かを常に考え、障害特性も踏まえながら支援していく方向性に決めました。仲間にも十分な時間をかけて説明を重ね、納得していただきました。ここまでに一年かかりました。

作業は計画から

班長を始め、仲間が自発的に決めた備品係と衛生係の各リーダーが中心となり、毎週月曜日に30分くらいかけて1週間の作業計画を念入りに立てます。毎日の朝会では、健康チェックと作業計画に沿った作業の打ち合わせを15分程度おこないます。作業の種類や工程を仲間と職員で打ち合わせし、作業の割り振りは仲間がします。この方法を取って3年目、そうすることで一日の作業の見通しが持てます。

全工程の作業ができる仲間は一人もいませんが、それぞれの得意分野で力を発揮し、チームワークでクッキーが仕上がります。最近では、今まで関わっていなかった作業に興味を持ち挑戦する仲間もいて、その光景を見た他の仲間にも良い刺激にもなっています。

職員は、作業内容が負担になっ

てないかを常に見守り、作業環境を整えるようアドバイスし、健康チェックや衛生管理、異物混入を防ぐための支援をします。仲間の人数が少ない日は作業の進み具合を見て応援に入りますが、基本的にクッキー作りはしません。

「仲間の声」

班長 潮崎弘明さん(51才)「クッキー班の目標『誰にも愛されるクッキー』をめざしています。」

副班長 辻村哲志さん(53才)「自分たちで話し合いながら作業ができてとても楽しいです。」

また、常に品質向上のために工程の見直しをします。その時は作業を早めに終わらせ仲間と一緒に考えて一つ一つ進めて行きます。失敗したり不良品を出した際も、原因を一緒に考え振り返りをします。失敗を恐れるのではなく、「失敗は成功のもと」と声掛けをしています。

自分たちで作業計画を立てることで作業への責任もとても強く持たれています。仕事ばかりではなく、年に数回ですが作業の区切りがついたときには、班独自でお疲れさん会を開催し楽しんでいきます。

ピンチをチャンスに

今年はコロナ禍でクッキーの売上が減りクッキーを作る時間が

減りました。しかしこれを機に商品の見直しや、いかに無駄を省き作業に集中するかを話し合いました。

根気がいる試作作業を仲間のチームワークで成し遂げ、看板商品である塩クッキーをバター100%に戻し、さらに美味しい商品へと仕上げたことは自信につながりました。

作業動線、工程の場所、器具の配置などさまざまな意見が出され改善を重ねスムーズに作業ができるようになりストレスも減らすことができました。

今後、HACCP(衛生管理)など課題がたくさんありますが、仲間のチームワークで乗り切っていけることと思います。



アイスボックスクッキーの型詰め作業

新型コロナウイルスの状況と

障害者の置かれている立場

きょうされん全国理事

峰山共同作業所 管理者 山口 高志

世界規模で広がっている新型コロナウイルス感染。その発生から半年以上が経過していますが、収束の兆しもなく広がり続けています。

アメリカのトランプ大統領をはじめ、日本プロ野球の選手や芸能人など、著名人の感染を伝える報道に、新型コロナウイルスへの感染のリスクは誰にでも分け隔てなく襲ってくるのだとつくづく思います。その反面、感染後の対応や結果については、その国や地域の経済状況や政策の違い、そして感染者の置かれている社会的な立場により大きく変わることも明らかになっていきます。

アメリカのいくつかの州では、州の医師会にむけたガイドラインにて「：重度の障害をもつ人たちは人工呼吸器の使用から外される可能性がある」など、障害のある人の命に優先順位をつけるような動きも実際に起こっています。

日本においても、入所施設や精神科入院病棟で起こったクラスター感染の対応について、入院治療（感染者の隔離）はせず、その建物

での対応がされるなど、一般とは違う対応が行われることがあります。

このように、社会情勢が極限の状況になればなるほど、障害者をはじめ、社会的弱者といわれる人たちにそのしわ寄せが及んでしまいます。一人ひとりが大切にされる社会の実現に向けて、その大きな課題や矛盾を新型コロナウイルスはわたしたちに投げかけているのではないのでしょうか。



きょうされん利用者部会が作成した要望書をもとに厚労省とズームで懇談会をおこなった時の写真です

障害者生活支援センター結 3事業所合同の学習会について

京丹後市障害者相談支援事業所 結

主任・相談支援専門員 志月 友美

障害者生活支援センター結では、相談事業所3カ所合同（宮津市、京丹後市、与謝野町の3カ所にあります）で学習会を定期的に開催しています。この学習会は、自分たちで計画し、テーマについて調べ、それを決められた時間でわかりやすく伝える、という力をつけるための学習の機会にもなっています。

薬について勉強をしました

学習会は3事業所で持ち回りにしており、9月は京丹後結が担当。学習会のテーマは「薬について」。利用者さんは服薬をされている方がほとんどで、利用者さんとお話をする中で必ずといっていいほどその話題はでてきます。当たり前のようにしている話題ですが、薬のことって私たちはどこまで理解しているだろうか：知識を深めていこう！ということで「薬」をテーマにしました。学習会までに、薬の専門家である薬局の薬剤師さんに薬の効き方、薬の相互作用など基礎的なことを教えていただきました。学習会にむけて調べる項目を職員で分担し、教えていただいた

たことを参考にしたり、自分たちなりに調べてまとめ、いざ本番。慣れた職員の前ですが、ドキドキと緊張はするものです。今年は新型コロナウイルス感染防止のためオンライン（ZOOM）での実施でした。

学習会をおして

今回の学習会で薬剤師さんとのつながりができ、オンライン学習会にも挑戦することができました。自分たちで計画しすすめていくことは正直大変ですが、貴重な経験ができる大切な取り組みです。



オンライン（ズーム）報告

「親のこころ」



正伸には脳性麻痺があります。乳児期より舞鶴や京都市内の病院に電車で月

に一回通っていました。幼児期は地元の保育所に通い、その後与謝の海養護学校の小学部に入學。高等部を卒業後は、野田川共同作業に通所。1997年夢織りの郷が開設のとき、こちらに移りました。身体を動かす事は大好きで、自宅から近いこともあり電動自転車で数年間、通所していたんですよ。

休日家族で魚釣り！

私の親元は伊根町の亀島。家の前は海。いつでも魚釣りが楽しめます。正伸は小さい頃から魚釣りが大好きで今でも年に10回以上は家族で魚釣りに行きます。糸にエサ付けするのは私。竿を海に投げるのはお父さん。釣り上げるのは正伸。秋には小あじが一日に100匹以上釣れるんです!!

養護学校の時は地元のおっちゃんたちに「船釣りに行こうか!」と声をかけてもらい正伸

夢織りの郷つむぎ

利用者家族 谷川 美栄子

も喜んで船釣りに何度か連れて行ってもらいました。

旅行

となり組の日帰り旅行や、お父さんの同年代の夫婦の人たちと年に一度の宿泊旅行にも参加しています。特に思い出に残っているのが群馬県の白根山に行ったときです。細くて長いでこぼこ道を正伸の車椅子にロープを結び10数名で引っ張りながら火口湖目指して歩いたことです。みんなの協力なしでは行けませんでした。

目的地に着いた時に見た火口湖はほんとに綺麗でした。今年はコロナの関係で思うように出かける事はできませんが、またみんなでゆっくり旅行に行きたいです。



群馬県旅行にて

新製品

「唐錦織のトートバック」がまた!!

夢織りの郷つむぎ

支援員 水口 靖恵

夢織りの郷つむぎの「きらきら班」は、日ごろ、岩瀧地区にある「カフェショップ花鈴」に通い、喫茶店の業務とともにリサイクル着物や縫製製品を販売しています。

また、ちりめんのはぎれを揃えてラッピングし、お土産セットとして天橋立の土産店に卸しています。しかしながら、このコロナ禍で状況は一変!!

「ピンチをチャンスに!」を合言葉に利用者・職員で知恵を絞り、新しい製品づくりに力を入れていきます。ペットブームにのり「かわいい犬」の絵柄でトートバックを製作しました。



1つ 3,000 円です

大きさは縦35cm、横32cm、まち4cmでA4サイズが入ります。伝統的な唐錦織りで、黒・カーキ・薄カーキ・ベージュ・紺と5色あります。どの色も絵柄と調和がとれて秋らしい和クラシックに仕上がりました。動物好きの方、オリジナル品の好きな方、癒されたい方にピッタリ!!

「カフェショップ花鈴」にて写真のトートバックを見かけたら、ぜひ手に取りお求めください!!

カフェショップ花鈴

(京都府与謝郡与謝野町岩瀧1256)

TEL 0772-46-2110

夢織りの郷つむぎ

TEL 0772-43-0380

担当 水口

ご寄付御礼

みなさまからのご寄付、誠にありがとうございます。

2020年8月18日〜10月17日

(順不同・敬称略)

秋山晃一 日下部みはる

黒田 学 星 幸敏

松村 繁 杉本裕則

その他匿名でもたくさんのご寄付をいただいております。

コロナ禍での小さな幸せ

「新型コロナウイルス感染症」が流行し始めてすでに半年以上が経ち、誰も想像しなかったその脅威は、私たちの生活を完全に変えてしまいました。

職場では、仲間の仕事にも影響が出て辛い日々ですが、私生活でもかなりダメージを受けました。計画していた旅行は断念、飲みにも外食にも行けず、好きなアーティストのライブや楽しみにしていた音フェスが全部中止！何の楽しみもありません！と気分は落ち込むばかり。

リレー随想



花音 音美
ワークセンター
主 任
内田 真奈美

さらに、2月からオーストラリアに留学していた息子は、数日しか大学に通えずオンライン授業。「買物以外出かけると罰金」という厳しい国の

政策でシェアハウスから出られず意味のない留学生活。この春短大に進学した娘も、入学式もなく学校にもアルバイトにも行けず、アパートにこもる日々。一人とも実家に帰って来ざるを得ない状況になりました。意気揚々と新しい学校生活に希望をもって出発した子供たちがすっかりして帰ってきた姿に、親としてなんと悔しく悲しい思いでした。

そんな訳で、離れて暮らしているはずの私たち家族は、再び一緒に生活することになりました。オンライン授業のほかに行うことのない子供たち二人は、交代で晩ご飯を作ってくれるようになり、私のお弁当は、おばあちゃんも交じって3人で順番に作って届けてくれるようになりました。

これまで家族のために作る立場だった食事やお弁当。作ってもらえるってなんて幸せ!!成長した子供たちとは大人同士の会話ができるようになり、二十歳になった息子との晩酌は格別笑。

6月に娘、8月に息子も大学に戻って行きました。今度こそ、楽しく充実した学生生活を送れるよう願うばかりです。コロナ禍は、楽しみを奪い、生活を大きく変えました。しかし、だからこそその楽しみや幸せを感じられる数か月を過ごすことができました。いつまで続くかわからず、まだまだ気は抜けませんが、これまでは違う楽しみを見つけていこうと思います。

次回は

伊根の里

支援員 平林 将士です。

新人正規職員紹介

氏名 上田 ゆり子
所属 夢織りの郷いきいき



【これまでの略歴】保育士
【趣味・好きなこと】歌を歌うこと・子どもたちと一緒に『鬼滅の刃』にはまっています。

【抱負】夢織りの郷いきいきに勤務して11年目になりました。11月から正規職員として、さらに責任感を高め仲間の方と毎日充実した日々が過ごせるよう頑張りたいと思います。

氏名 新井 美沙
所属 夢織りの郷いきいき



【これまでの略歴】介護職

【趣味・好きなこと】

食べる・寝ること

【抱負】いつも笑顔を忘れず頑張っていきたいです！

編集後記

今年も残り2か月となりましたが、何ととっても『新型コロナ』に尽きる年となりました。

ソーシャルディスタンスやマスクの着用など『新しい生活様式』に慣れてきつつ、研修・行事・イベント等の多くは中止になりました。特に仲間は事業所での取り組みをとて楽しみにされているので、相次ぐ中止や縮小のお知らせにガッカリされている姿を見ると申し訳ない気持ちになります。

『コロナ禍』の中でも「楽しい！うれしい！」と思えることを今までと違う形で創意工夫し提案することの大切さを痛感しています。

私が変わらず楽しめた事は何か。音楽を聴く、ミシンをかける、それと『匂い』。子供の頃から外で感じる季節の匂いが好きで、特に金木犀キンモクセイの香りが好きで吸い寄せられては道草をしていました。今も運転中に金木犀キンモクセイの香りが漂ってくると幸せな気分になります。幸せを感じる事って意外と身近にあるように思います。

そうだ！日々周りの人たちとの会話にも癒されている。感謝です。(ば)

夏の思い出

いきいき



♪月が出た出た～
月が出た～ 炭坑節



わっしょいわっしょい

みやづ作業所



毎年恒例の
すまいるアイス販売!

冷た～い! おいし～い!
楽し～い!

ゆうゆう作業所



かき氷 いっぱいけずるぞ



かき氷 夏はやっぱりこれだねー

菜の花



すこし怖い

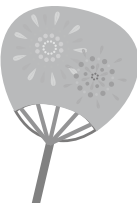
るむ



夏の思い出 浴衣姿で
スロットボール



夏まつり浴衣と法被で
ポーズ!!



花火綺麗☆

